

◆◆小児看護学実習

目的

成長発達し続ける子どもとその家族を理解し、各健康段階に応じた看護を実践するための基礎的な能力を養う。

目標

- 1 子どもの特徴と成長発達を促すための援助が理解できる。
- 2 子ども及び家族の看護問題を明確にし、解決に向けての援助ができる。
- 3 子ども各期の対象に応じた小児看護の基礎的技術を習得する。
- 4 病気・入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、その援助の方法を学ぶ。
- 5 子どもの安全管理における責任を自覚し、感染防止・事故防止ができる。
- 6 健全な子ども観を養うとともに、小児看護に対する関心を深めることができる。
- 7 子どもと家族の権利を守る看護が実践できる。

実習内訳

科 目		単位（時間）
小児看護学実習	臨地実習	（80 時間）
	実践活動外学習	（10 時間）
合計		2 単位（90 時間）

実践活動外学習

目 的	内 容	時間数
1 実践活動をイメージし、実習目標達成に必要な準備を整える。	フロアオリエンテーション (1)実習の目的・目標・学習の進め方 (2)実習を円滑に実施するために必要な実習施設（保育園・病棟）の概要、構造、指導体制 (3)環境・健康状態・各発達段階から考えられる安全対策、感染予防のシミュレーション学習	2 時間
2 対象としての子どもの理解を深め、小児看護に必要な技術を養う。	(1)地域で生活する子どもの看護について意見交換、学習の共有 (2)健康を障害された子どもの看護に必要な学習の確認と文献検索 (3)子どもの特徴を踏まえた事例検討 (4)子ども・家族へ配慮した看護技術の練習 (5)子どもの安全管理について意見交換と看護技術の練習 (KYT・転倒転落・ベッド柵の取扱い 等)	8 時間

小児看護学実習（1）地域で生活する子どもの援助（保育園）

行動目標	実習内容	実習方法
<p>1 乳幼児の成長発達について対象者を通して理解し、子どもの特徴をとらえることができる。</p> <p>1) 乳幼児の成長発達を、対象者を通して述べる ことができる。</p> <p>2) 子ども達とコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>2 乳幼児の成長発達に応じた基本的日常生活援助の方法を理解できる。</p> <p>1) 子どもの安全を守るために必要な環境を述べる ことができる。</p> <p>2) 乳幼児の食事・排泄・睡眠・清潔・衣服の着脱の実際について述べる ことができる。</p>	<p>1) 成長・発達の把握</p> <p>(1) 形態的成長・機能的発達</p> <p>(2) 精神運動機能・社会性の発達、 発達課題</p> <p>(3) 子どもを取り巻く養育環境</p> <p>(4) 子どもとのコミュニケーション</p> <p>① 会話</p> <p>② スキンシップ</p> <p>③ 笑顔</p> <p>④ アイコンタクト</p> <p>1) 保育園の概要</p> <p>(1) 保育園の構造・施設・設備</p> <p>(2) 保育園の規則・行事・日課</p> <p>(3) 成長発達と危険因子との関連</p> <p>(4) 成長発達を促す安全な環境</p> <p>2) 子どもの日常生活援助内容</p> <p>(1) 食事</p> <p>① 食事習慣としつけ</p> <p>② 食事の援助 (哺乳・離乳食・おやつの介助を含む)</p> <p>③ 食事の観察</p> <p>(2) 排泄</p> <p>① 排泄習慣としつけ</p> <p>② 排泄の援助(おむつ交換含む)</p> <p>③ 排泄の観察</p> <p>(3) 睡眠</p> <p>① 睡眠習慣としつけ (入眠時の習慣)</p> <p>② 睡眠の援助</p> <p>③ 睡眠の観察</p>	<p>事前学習</p> <p>① 成長発達表(授業で作成したもの)</p> <p>② 各成長発達に応じた日常生活行動と援助</p> <p>③ 事故・感染防止(所定の用紙)</p> <p>1 -1)</p> <p>(1) 授業で作成した成長発達表をもとに、 保育園の園児を通して、成長発達を観察し、 記録する。</p> <p>(2) 成長発達に影響を及ぼす要因について知る。</p> <p>(3) 各クラスの園児の成長・発達を成長発達表と 比較する。</p> <p>(4) 各クラスの園児の様子から、遊びの内容を把握する。</p> <p>(5) 遊びの内容と発達を関連づける。</p> <p>(6) 保育士の遊びの援助を観察し、その意図を知る。</p> <p>(7) 手作り絵本・おもちゃの実施を通し、 子どもの反応を知り、関わり方を考える。 (おもちゃは2年次の夏休みに作成。 実習初日に計画書を園長に提出し、実施の お願いをする)。</p> <p>2 -1)2)</p> <p>(1) 保育園のオリエンテーションから学ぶ。</p> <p>(2) 各クラスの園児を通し、食事・排泄・ 睡眠・清潔・衣服の着脱について観察し、 記録する。</p> <p>(3) 乳幼児の個別性に応じて、食事・排泄・ 清潔・衣服の着脱について、指導者の指導の もとで援助する。</p> <p>(4) 援助は、担当の指導者と連携をとり、 積極的に子どもと関わりながら実習する。</p> <p>(5) 実施した日常生活援助と発達を比較し 援助の必要性を考える。</p>

行動目標	実習内容	実習方法
<p>3 乳幼児の成長発達に応じた遊びの意義と援助方法が理解できる。</p> <p>1) 子どもにとっての遊びの重要性を述べることができる。</p> <p>2) 乳幼児の遊びと成長発達の間接的関係を述べるができる。</p> <p>3) 乳幼児の成長発達にあった遊びの援助ができる。</p>	<p>(4) 清潔・衣服の着脱</p> <p>① 清潔習慣としつけ(入眠時の習慣)</p> <p>② 衣服の着脱の援助</p> <p>③ 全身の観察</p> <p>1) 遊びの内容と発達の間接的関係を知る。</p> <p>(1) 発達段階に合った遊びの種類</p> <p>(2) 遊びと成長・発達の間接的関係</p> <p>① 使っている玩具、遊具</p> <p>② 興味、関心の度合い、集中度、参加度</p> <p>③ 運動量、下肢・上肢の使い方</p> <p>④ 友人との関係、保育士との関わり方と反応</p> <p>(3) 遊びへの関わり方とおもちゃの選択</p>	<p>3 -1)</p> <p>(1) 実習は園の保育計画に沿って進め、各クラスを日々ローテーションする。0～5歳及び混合クラスに入る。</p> <p>備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通経路は事前に確認し、指定された時間前に、グループメンバーが揃い、到着する。 ・学びの会の日時は園長に確認し、前日までに担当教員に連絡する。会の運営は学生が行う。 ・詳細は各保育園の事前オリエンテーションを参考にする。 ・検便は実習開始一週間前の月曜日朝、所定の場所に提出する。結果を保育園毎に担当教員より金曜日に受け取り、実習初日に園長に提出する。 ・学内での実習オリエンテーション後、各保育園に挨拶の電話を入れる。

小児看護学実習（2）健康を障害された子どもの看護（病院）

行動目標	実習内容	実習方法
<p>1 受け持ち患児の特徴・健康障害の状況を理解し、看護過程の技術を用いて看護を実施できる。</p> <p>1) 患児の成長発達段階、疾病の病態生理、症状、検査、治療処置、家族、入院に伴う影響について情報が収集できる。</p> <p>2) アセスメントガイドに基づき小児看護の視点から分析解釈し、病気や入院が受け持ち患児や家族に及ぼす影響を述べられる。</p> <p>3) 2)に基づき身体的、精神的、社会的側面についての関連を図式化することで患児の全体像が把握できる。</p> <p>4) 全体像をふまえ、受け持ち患児の看護上の問題を明確にできる。</p> <p>5) 看護の目標を設定できる。</p> <p>6) 患児の発達段階を捉えた具体的な援助方法が述べられる。</p> <p>2 立案した計画を基に、受け持ち患児の成長発達段階に応じた日常生活の援助ができる。</p> <p>1) 患児の日常生活の援助ができる。</p> <p>(1) 患児に適した環境を整えることができる。</p> <p>(2) 発達段階に応じた食事の援助ができる。</p> <p>(3) 排泄の援助ができる。</p> <p>(4) 睡眠の援助ができる。</p> <p>(5) 清潔および衣生活の援助ができる。</p>	<p>1) 患児の成長発達段階の観察</p> <p>(1) 形態的成長・機能的発達・精神運動機能・社会的発達</p> <p>2) 受け持ち患児の背景を知る</p> <p>(1) 生育歴</p> <p>(2) 家庭環境（両親、兄弟）</p> <p>(3) キーパーソン</p> <p>3) 患児の疾病の病態生理、症状、検査、治療処置の理解</p> <p>4) 患児の日常生活、基本的な生活習慣の自立状況の把握</p> <p>(1) 入院前・後の生活の変化</p> <p>(2) 食事・排泄・清潔・睡眠・衣生活の自立状況・家族の教育方針</p> <p>5) 入院が患児に及ぼす影響の理解</p> <p>(1) 乳児期の入院に伴う問題</p> <p>(2) 幼児期の入院に伴う問題</p> <p>(3) 学童期、思春期の入院に伴う問題</p> <p>(4) 患児の入院に伴う家族の問題</p> <p>(5) 患児・家族の疾患についての理解状況</p> <p>6) 患児の健康回復への援助</p> <p>(1) 健康段階</p> <p>(2) 症状</p> <p>(3) 治療・処置</p> <p>(4) 成長発達段階に応じた援助</p> <p>7) 家族への援助</p> <p>(1) 入院に伴う問題への援助</p> <p>(2) 保健指導</p> <p>1) 環境調整の援助</p> <p>(1) 安全管理</p> <p>(2) 病棟の構造・設備、規則、日課の把握</p> <p>(3) 病棟行事の種類・時期</p> <p>(4) ベッドの種類とリネン</p> <p>(5) 温度、湿度、照明、他</p> <p>2) 発達段階に応じた食事の援助</p> <p>(1) 食事・水分の観察（種類・献立・摂取状況・量）</p> <p>(2) 栄養状態の評価</p> <p>(3) 食事の環境</p> <p>(4) 食事介助</p> <p>(5) 食習慣形成への援助</p>	<p>事前学習</p> <p>① 受け持ち患児の病態生理</p> <p>② 治療・処置、看護、成長発達及び評価方法</p> <p>③ 成長発達（乳児～思春期の成長発達表）</p> <p>④ 事故、感染防止（所定の用紙）</p> <p>1 -1)～7)</p> <p>(1) 身体計測を行い評価する。</p> <p>(2) 成長状況を指数で評価する。 （カウプ指数、ローレル指数、パーセントイル）</p> <p>(3) 入院による影響を学習し、子ども・家族・看護師から情報を収集する。</p> <p>(4) 入院前・現在の状況を把握する。</p> <p>(5) 正常値や健康時の情報と比較し、欲求の充足・未充足の状況を知る。</p> <p>(6) 受け持ち患児や家族に影響を及ぼすと思われる因子を考える。</p> <p>(7) 日々の援助を振り返り、患児や家族の思いや援助の妥当性を振り返る。</p>

行動目標	実習内容	実習方法
<p>(6) 移動および活動の援助ができる。</p> <p>2) 患児およびその家族とコミュニケーションをとることができる。</p> <p>3) 受け持ち患児の成長発達に応じた遊び(学習)の援助ができる。</p>	<p>3) 発達段階に応じた排泄の援助</p> <p>(1) 排泄の観察</p> <p>(2) おむつ交換</p> <p>(3) 排泄習慣形成への援助</p> <p>4) 睡眠の援助</p> <p>(1) 睡眠の観察</p> <p>(2) 睡眠の環境</p> <p>(3) 睡眠の援助</p> <p>(4) 睡眠習慣の維持</p> <p>5) 清潔・衣生活への援助</p> <p>(1) 全身の観察</p> <p>(2) 患児に適した方法の選択</p> <p>(3) 清潔習慣形成への援助</p> <p>(4) 適切な衣服の選択</p> <p>(5) 衣服の着脱の援助</p> <p>6) 移動・活動の援助</p> <p>(1) 成長発達段階に見合った姿勢体位の保持</p> <p>(2) 成長発達段階に見合った移動の方法</p> <p>(3) 健康段階に見合った活動への援助</p> <p>7) スキンシップ、アイコンタクト、会話、語りかけ。</p> <p>8) 遊び(学習)への援助</p> <p>(1) 成長発達段階に応じた遊びと学習の選択</p> <p>(2) 健康段階に応じた遊びの工夫</p> <p>ベッド上の遊び・プレイルームでの遊び</p> <p>(3) 成長発達段階に応じた学習指導、規則的な生活(学習を含めた日課)、学習環境の調整、学習の進め方</p>	<p><注意事項></p> <p>① 事故防止に留意する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患児の発達段階に応じて十分注意する。 ベッド柵 はさみ 小さい玩具などの誤嚥 胸ポケットに刺してあるボールペン 時計・爪 等 <p>② 感染防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生から患児に感染の恐れがある場合は教員に病院に入る前に相談する。 患児から感染の恐れがある場合は、状況がわかり次第早急に報告する。 <ul style="list-style-type: none"> ・処置一手洗いの厳守 ・含嗽励行 <p>③ 患児の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患児の援助を実施するときは指導者又は教員と一緒に実施する。ひとり立ちして実施してよいものも必ず事前に報告をする。 ・同室の患児にも声をかける等、寂しい思いをさせないように配慮する。 ・患児の病状に合わせて、成長発達を妨げないような援助を考える。(玩具の片付けを患児に促す。等) <p>④ 実習の姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉づかいに留意する。友達言葉や命令口調にならないよう、親しみを込めた言葉づかいの中にも節度を持つ。 ・家族から疾患や治療等の質問を受けた場合は学生で判断しないで相談する。 ・なんでも不明なことがあったら自己判断せずにナースか教員に連絡・相談報告する。 <p style="text-align: center;">*可能な限り、手作りおもちゃを活用する。</p>

行動目標	実習内容	実習方法
<p>4) 患児に必要な診療時の援助技術の基礎を習得できる。</p> <p>(1) 小児看護に必要な基本技術、診療時の援助技術が実施できる。</p> <p>(2) 患児を一人の人間として尊重しプライバシーを配慮し援助ができる。</p> <p>(3) 患児の安全を守るために必要な援助を理解できる。</p> <p>(4) 患児の発達段階に応じて起こりうる事故を予測でき、事故を防ぐ援助ができる。</p> <p>(5) 患児の感染を防ぐ援助ができる。</p> <p>5) 実施した援助が適切であったかを振り返り、目標に基づいて評価ができる。</p>	<p>9) 小児看護の基本技術・診療時の援助技術の実施</p> <p>(1) 患児とその家族とのコミュニケーション</p> <p>(2) プレパレーション</p> <p>(3) 患児の環境整備</p> <p>(4) 患児のバイタルサインの測定</p> <p>(5) 患児の身体計測(身長・体重)</p> <p>(6) 治療、処置別援助(経験録に基づく)</p> <p>① 診察の介助、治療検査時の援助</p> <p>・経口与薬、吸入、採尿、採血時の固定、輸液・シリンジポンプ</p> <p>・点滴静脈注射、・浣腸、吸引</p> <p>10) 安全を守る技術</p> <p>(1) 患児の発達段階と起こりやすい事故の理解と防止(転落・転倒・誤嚥・誤飲・離棟等)</p> <p>(2) 事故の予防</p> <p>11) 院内感染の予防</p> <p>(1) 患児が清潔習慣を維持できるような援助</p> <p>(2) 感染防止の為の病棟の構造・設備の理解</p> <p>(3) 感染防止の原則をふまえた援助(援助者の手洗含む)</p>	<p>*プレパレーション発達段階を考慮し人形やパンフレットなどを使い説明し、子どもの心の準備をはかる。</p> <p>*ベッド柵の上げ下げに注意する</p> <p>*病棟への出入り時の管理</p>
<p>3) 小児看護を通して自己の子ども観を深めることができる。</p> <p>1) 小児看護学実習を振り返り、自己の課題を述べることができる。</p> <p>2) 小児看護における看護師の役割について述べるができる。</p> <p>3) 患児とのかかわりから自己の子ども観が表現できる。</p>	<p>1) 子どもに対するイメージの変化</p> <p>2) 小児看護に対する学びの明確化</p> <p>3) 子どもの権利擁護</p>	<p>3 -1) 3)</p> <p>(1) 日々のカンファレンスを通して学びの共有をはかり自己の考えを深める</p> <p>(2) 最終レポートに自己の考え(実習を通しての学びを含む)をまとめる。</p>